

□□□ 問 4

近年における国民医療費に最も近い値はどれか。

1. 20兆円
2. 30兆円
3. 40兆円
4. 50兆円
5. 60兆円

解答 3

解説 令和元年度（2019年度）の国民医療費は44兆3895億円である。

□□□ 問 5

近年の診療種類別国民医療費における薬局調剤医療費に最も近い値はどれか。

1. 7兆円
2. 17兆円
3. 27兆円
4. 37兆円
5. 47兆円

解答 1

解説 令和元年度（2019年度）の薬局調剤医療費は7兆8411億円である。

後発医薬品とその役割について説明できる。

□□□ 問 6

ジェネリック医薬品には適用されない規定はどれか。

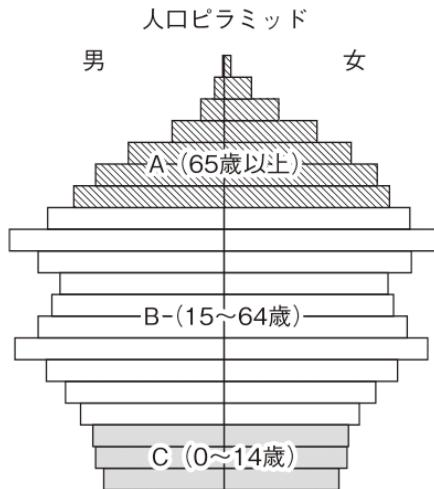
1. 製造販売業の許可
2. 製造業の許可
3. 製造販売の承認
4. 再審査
5. 再評価

解答 4

解説 後発医薬品を、業として製造販売するためには製造販売業の許可、業として製造するためには製造業の許可、さらには品目ごとに製造販売の承認等が必要となる。再審査の対象となる医薬品は、新医薬品等であるため、後発医薬品は対象にならない。再評価の対象となる医薬品は、既に承認を与えられている医薬品から厚生労働大臣が範囲を指定したものであり後発医薬品も対象となりうる。

□□□ 問8

下記の人口ピラミッド人口集団における老年化指数を求める正しい式はどれか。



1. $A \div C \times 100$
2. $(A+C) \div B \times 100$
3. $A \div B \times 100$
4. $C \div B \times 100$
5. $A \div (B+C) \times 100$

解答 1

解説

老年化指数は、老人人口を年少人口で除して 100 を乗じた値であり、集団の高齢化の速度の指標である。A が老人人口、B が生産年齢人口、C が年少人口である。

□□□ 問9

現在、100 以上である我が国の人口指標はどれか。

1. 年少人口指数
2. 老年人口指数
3. 生産年齢人口割合
4. 老年化指数
5. 従属人口指数

解答 4

解説

老年化指数とは、老人人口を年少人口で除したものに 100 を乗じて求める。集団の高齢化の速度の指標であり、2019 年（令和元年）現在、235.9 である。

CHECK

年齢 3 区分別人口の割合

区分	年齢	我が国の割合 [2019 年 (令和元年)]
年少人口	0~14 歳	12.1%
生産年齢人口	15~64 歳	59.5%
老年人口	65 歳以上	28.4%

□□□ 問 26

調剤報酬に関する記述のうち、誤っているのはどれか。

1. 調剤報酬は、調剤技術料、薬剤調製料及び特定保険医療材料料の3つで構成される。
2. 調剤報酬を決定する際、厚生労働大臣は、中央社会保険医療協議会の意見を聴く。
3. 調剤報酬点数表は、報酬額が点数で示されており、1点は10円である。
4. 「重複投薬・相互作用等防止加算」は、薬学管理料の調剤管理料に加算される。
5. 薬価基準の価格の改定は、原則として当該医薬品の実際の市場価格を調査し、一定の算定方式により定められる。

解答

1

解説

調剤技術料（調剤基本料及び薬剤調製料）、薬学管理料（調剤管理料、服薬管理指導料等）、薬剤料及び特定保険医療材料料の4つで構成される。

□□□ 問 27

保険薬局の保険薬剤師が行った在宅患者訪問薬剤管理指導に関する記述のうち、正しいのはどれか。

1. 介護支援専門員（ケアマネジャー）の指示により行った。
2. 薬剤師でない従業員に業務の実施を指示した。
3. 中心静脈栄養法の対象患者を行った。
4. 病院に入院中の患者を行った。
5. 同一月内に、複数の薬局が同じ患者に対し在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定した。

解答

3

解説

在宅患者訪問薬剤管理指導は、がん末期患者や中心静脈栄養法の対象患者にも行うことができるため3の記述が正しい。

在宅患者訪問薬剤管理指導は、医師の指示により薬剤師が指導を行うもので、患者の自宅又は居住系施設にて実施できる。入院中の患者は対象外である。また、同一患者に対して、在宅患者訪問薬剤管理指導料を複数の薬局で重複して算定することはできない。

□□□ 問2

クラリスロマイシン、アモキシシリン水和物、ランソプラゾールの三剤併用療法の適応はどれか。

1. 胃がん
2. 胃潰瘍
3. 十二指腸潰瘍
4. ヘリコバクターピロリの除菌
5. 逆流性食道炎

解答 4

解説 ヘリコバクターピロリの除菌には、通常、成人にはクラリスロマイシンとして1回200 mg、アモキシシリン水和物として1回750 mg及びランソプラゾールとして1回30 mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。クラリスロマイシンは、必要に応じて增量することができ、1回400 mg 1日2回を上限とする。

□□□ 問3

小児に用いる解熱・鎮痛・消炎坐剤として、最も安全なのはどれか。

1. ジクロフェナカナトリウム坐剤
2. アセトアミノフェン坐剤
3. サラゾスルファピリジン坐剤
4. インドメタシン坐剤
5. ケトプロフェン坐剤

解答 2

解説 現在、安全かつ有効な小児患者用の解熱・鎮痛坐剤として、アセトアミノフェン坐剤が多く用いられている。サラゾスルファピリジン坐剤は潰瘍性大腸炎に、その他の坐剤は、主に、鎮痛・消炎目的で用いられている。

□□□ 問4

医療用医薬品添付文書に記載されている用量の上限（制限量）について、正しい記述はどれか。

1. グリベンクラミドの1日最高投与量は1 mgとする。
2. グリクラジドは1日4 mgを超えないものとする。
3. グリメピリドは1日6 mgまでとする。
4. メトホルミン塩酸塩の1日最高投与量は0.75 mgとする。
5. ボグリボースは1回3 mgまでとする。

解答 3

解説 グリメピリドは、通常、成人には0.5~1 mgより開始し、1日1~2回朝又は朝夕、食前又は食後に経口投与する。1日最高投与量は6 mgまでとする。これを超えると低血糖のおそれがあるため、制限量は超えないようとする。